

令和7年度こころの健康センター運営協議会 議事概要

開催日時：令和8年3月12日（木）19時30分～20時30分

開催場所：オンライン開催（Teams）

出席者：内田直委員、金沢ひづる委員

欠席者：丸木努委員、加瀬裕之委員

事務局：久保所長、佐藤所長補佐、三浦医師、塚田所長補佐、小池係長、
藤賀係長、沼澤所長補佐、米本主査、北詰主任、降旗主事

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：0人

会議資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・さいたま市こころの健康センター運営協議会設置要綱
- ・令和7年度こころの健康センター事業実績報告
- ・令和6年度こころの健康センター所報

1. 開会

2. 挨拶（久保所長）

3. 議事

（1）令和7年度こころの健康センター事業実績報告

事務局より配布資料に沿って説明

（2）今後の運営に関する意見交換

【内田委員】

こころの健康センターとして様々な事業を一年間行ってきたことがよく分かった。さいたま市は精神医療に対して十分な取組をしていることが理解できた。

こうした取り組みがどういった成果を上げているかを報告の中に入れていただくことが大事だと思う。例えば自殺対策について、自殺者数は増えているが本当はもっと多かったところが減った結果なのか。また、依存症について研修の参加者が回復の方向に向かうような結果となったのか。取り組みの報告の報告だけでなく、結果として出たものが良かったかどうかの評価につながる。結果が上手くいかなかったのであれば、事業の改善を図ることが日本の中でもより良い精神医療対策をしているアピールにもなると思う。

もし何らかの結果を持っていれば伺いたい。

【塚田補佐】

内田委員、ご意見ありがとうございます。

自殺対策については数字と事業効果を結びつけることが難しい部分があるが、GPE ネット事業を利用された方のフォローアップを見ていると、経済的困窮をされている方であれば福祉につながりサービスを受けることで生きる希望を見出せて死にたい気持ちが少し減ってきたという方もいらっしゃるので、来年度の課題としてお見せできるようにまとめておきたい。

また、依存症当事者の方への取り組みとしては件数が少なかったのも、しっかり周知していきたい。依存症は長期化することが多い疾患であり、途中で離脱してしまう方も多い印象。

【内田委員】

今回の報告にも今のことを入れていただけたらいいと思うし、うまくいったことよりうまくいかなかったことを報告していただいて、精神科医が委員として参加している協議会なので年1回だが、別の角度からの意見で次年度に向けた事業をさらに改善していく可能性がある。

【金沢委員】

内田委員の発言どおり、詳細の事例を見たいと思う。

また、お子さんを見ていると例えば学校のカウンセリングがあっても相談せずSNSで相談して解決することが多くあったり、間違った情報が入っていることも多い印象。例えば次年度取組の図書館キャンペーンも、そういう親子がどれだけ図書館に行くかというのも疑問に思う。例えば医療機関窓口の周知を増やして受診につながれば重い事例も診ることができるかと思った。

【塚田補佐】

金沢委員、ご意見ありがとうございます。

子どもへの支援においてSNSの普及や自殺の弱年齢化を感じており、従来の関わり方では関係性を築くのが難しいお子さんが多く、金沢委員の医療機関へのつながりというお言葉を心強く思う。次年度、学校との連携強化について考えており、次回の協議会でご報告できることがあればと思う。

(3) 事務連絡

事務局より本協議会委員改選に伴う手続きについて説明

4. 閉会